2024 World Congress of Abdominal Wall Hernia Surgery (WCHS)　参加報告書

桑名市総合医療センター 外科　水越幸輔

この度は APHS Scholarship 2024 に選出いただき，誠にありがとうございます.
2024 年 10 月シンガポールで開催されました 2024 WCHS に参加させていただきましたので，所感をご報告いたします.
これまで海外学会への参加経験は 1 度きりで，英語という敷居の高さを感じ，積極的に参加しようとはしてきませんでした．そのような私が WCHS への参加を決意したきっかけは四谷メディカルキューブの今村清隆先生に Pre Congress Workshop のお手伝いに誘っていただいたのが始まりでした．2024 年 5 月の日本ヘルニア学会学術集会において割と軽い感じで『先生も参加しましょう』とお誘いいただきました．最初は戸惑いましたが，腹部ヘルニアを自身のライフワークに据えようと決心していたこともあり，これも一つの縁と思い，大げさですが清水の舞台から飛び降りるような気持ちで参加を決意しました.
演題登録に始まり，スライド登録まですべてホームページ上で行われましたが，スライド登録が完了しているかを確認することができず困惑しました．最終的に現地で問題ないことがわかり安堵しましたが，同様の不安を他の先生方もおっしゃっておりましたので日本の学会運営のクオリティーの高さを知る機会にもなりました.
会期は 9 日から 12 日までの 4 日間で，私は 10 日の Pre Congress Workshop のお手伝いから参加させていただきました．講師の今村先生，谷岡先生，Saseem 先生の他，サポーターとして私を含め 6 名の日本人医師が参加しました．日本では当たり前な縫合トレーニングですが，アジア各国では珍しいようで皆さん非常に熱心に取り組まれていました．かつて腹腔鏡を始めるにあたり一所懸命取り組んだ日々を思い出し，改めてトレーニングを継続する必要性を感じ，よい刺激となりました.
11 日からはいよいよ本会が始まり，私もプレゼンテーションさせていただきました．再発鼠径部ヘルニアの治療成績に関するポスター発表でしたが，Best Poster Session に選出いただき，短いながらも 4 分間のスピーチと質疑応答を経験しました．自身の英語力はよく理解しておりますので，とても自慢できるようなプレゼンテーションではありませんでしたが，日本の先生方に育てていただいたヘルニア手技を少しでも世界に発信できていれば嬉しい限りです．また，アジア諸国の先生方の熱意や成果をアピールする姿勢は控えめな日本人にとっては学ぶものべきものがあり，世界のトッププランナーである David Chen 先生や Yuri Novitsky 先生の講演を拝聴する機会にも恵まれたこともヘルニア外科医として大変充実した 2 日間となりました．一方で，海外学会ならではかもしれませんが，司会の先生が進行時間を守らず大幅に遅れているセッションもあり，決まった時間内で充実した議論を尽くそうとする日本の学会の良さを感じることもできました.
来年は APHS としてインドのニューデリーで開催され，そして，2026 年には我らが大阪での開催が予定されております．その準備も兼ねて，今回の WCHS ではかつてない人数の

日本人外科医が参加されたとお聞きしております．会場では APHS2026 の PR 動画も公開され，徐々に機運が高まりつつあります．微力ではありますが，今回の経験を活かし，今後も積極的に国内外の学会活動を行うことで盛り上げていければと考えております．
最後になりましたがこのような貴重な機会を与えてくださいました JHS 理事長の蜂須賀丈博先生，国際委員会委員長の三澤健之先生，私にきっかけを与えてくださった今村清隆先生，また関係者の皆様に深く御礼申し上げます。